

ナショナルバイオリソースプロジェクト  
中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成25年度第二回運営委員会議事録

日時：平成25年12月27日 13:30から17:00（16:00～施設等見学）

場所：岡山大学資源植物科学研究所 小会議室

参加予定者：

課題管理者	佐藤 和広	岡山大学資源植物科学研究所
委員長	掛田 克行	三重大学生物資源学部
委員	小松田隆夫	農業生物資源研究所
	土門 英司	農業生物資源研究所（遺伝資源センター）
	辻本 壽	鳥取大学乾燥地研究センター
	柳沢 貴司	作物研究所
	加藤 鎌司	岡山大学農学部
	五月女敏範	栃木県農業試験場
	前川 雅彦	岡山大学資源植物科学研究所
	武田 真	岡山大学資源植物科学研究所
	吉田 英哉	岡山大学資源植物科学研究所
	最相 大輔	岡山大学資源植物科学研究所
	久野 裕	岡山大学資源植物科学研究所
欠席	山崎 由紀子	国立遺伝学研究所
	村田 稔	岡山大学資源植物科学研究所
オブザーバー	NBRP 事務局	佐藤事務局長、平田事務局員

配付資料

- 資料1 平成24年度事業結果説明書（額の確定調査による修正）
- 資料2 ゲノム情報等整備プログラムに関する調査
- 資料3 研究論文数回答書（2007～2012）
- 資料4 生物遺伝資源委員会報告資料（NBRP）
- 資料5 オオムギ（成果スライド）
- 資料6 Seed Vault MTA 最終書類
- 資料7 名古屋議定書概要
- 資料8 ITPGR 打合せメモ（部外公開不可）
- 資料9 CWR barley AGENDA
- 資料10 育種学会講演要旨（佐藤）
- 資料11 育種学会スライド（佐藤）
- 参考1 Kyrgyz 収集オオムギ
- 参考2 IWGS ポスター
- 参考3 分子生物学会ポスター

議事：

1) 経過報告について

- 資料1 平成24年度事業結果説明書（額の確定調査による修正）について  
・事業実績の説明の修正についての説明があった。

#### 資料2 ゲノム情報等整備プログラムに関する調査 について

- ・文部科学省に提出したオオムギゲノム解析の進捗状況および今後の予定などについて回答した内容の説明があった

#### 資料3 研究論文数回答書 (2007~2012) について

- ・文部科学省に提出した回答内容の説明があった

#### 資料4 生物遺伝資源委員会報告資料(NBRP)について内容の説明があった。

- ・11月11日開催の委員会では Svalbald への種子預託および Global Crop Diversity Trust 主催のワークショップで野生オオムギの解析方向について説明したとの報告があった。

#### 資料5 オオムギ(成果スライド) について

- ・文部科学省に提出したNBRPオオムギの成果のポンチ絵の紹介があった。

#### 質疑等

(課題管理者) 課金のカード決済で利用しているNPOが作成したカレンダーの配付があり、その内容についての説明があった。

(掛田委員長) ミュータント種子を配布した場合の点数について。また、これまでの配付実績について。複数系統を含むコアセットはどういう配付点数になっているか？

(課題管理者) ミュータントは学内の武田委員、加藤委員に配布したのみであり、1点とカウントしている。なお、H26年1月には外部公開して配付を開始する。コアセットは含まれる系統数を計数している。

#### 2) Svalbaldへの種子預託について

- ・預託事業を進めており、2月末に実際に貯蔵庫に行き、種子を格納する（ビデオ撮影も行う）予定である。

#### 資料6 Seed Vault MTA最終書類について

- ・ノルウェー政府、Trust、スウェーデンのノルディックバイオダイバーシティセンターが関与している。産業植物が保存の対象で。アサガオは保存されているがシロイヌナズナの保存は無い。あくまでも保存種子のバックアップが対象である。明記されていないが遺伝子組換え体は保存の対象になっていないようである。MTAは10年単位での更新となっている。

- ・附則について：種子は10年以上発芽力が維持できるもので、よく乾燥されていることが必要。純度の高いオオムギ等では各系統300粒以上とし、保存袋のは特注品で（イギリス製）、箱のサイズ、ラベル、送付先など細かく規定されている。

#### 質疑等

(五月女委員) 日本製の預託箱はないのか？

(課題管理者) 日本には最適な規格の箱が無いので輸入を検討している

(辻本委員) 日本からの先行例は？

(課外管理者) 前例は無い。今回が初めてなのでセレモニーがあるらしい。日本のマスコミから先方に複数の問い合わせがあるらしい。こちらからはNHK文化部に連絡。今回は同行しないが、記事にはしてくれるかもしれない。

(土門委員) いつ行くのか？

(課題管理者) 2月24日から2月26日まで

(前川委員) 貯蔵庫の容量はどれくらいか？

(課題管理者) 200万から300万点可能と聞いている。

(前川委員) 要請すれば預託した種子は送ってもらえるのか

(課題管理者) 送料負担の条件で、箱単位で可能。岡山大の契約なので学内の他の材料も預託可能であるが、植物防疫上の手続きが植物によって異なるので確認の必要がある。防疫検査なしで預託できても、送り返した際に輸入許可の際の防疫が必要になる可能性がある。

### 3) 食糧農業植物遺伝資源条約への対応について

#### 資料7 名古屋議定書概要

- ・生物多様性条約と名古屋議定書についての説明があった

#### 資料8 ITPGR 打合せメモ (部外公開不可) について

- ・資料説明に先立ち、ITPGRについて土門委員より配付資料「ITPGRに基づく植物遺伝資源の利用手引き」についての説明(多数国間制度など)があった。その後課題管理者からメモの説明があった。

#### 質疑等

(辻本委員) SMITAではNBRPで配布された種子をユーザーが二次配布可能な状態であるが、MTAで縛ることは出来るのか？

(土門委員) MTAを締結して配布すれば、二次配布できないようにすることは可能？

(加藤委員) 農水のジーンバンクはSMITAで配布始めるのか？

(土門委員) 将来的にそうなる予定である。

(加藤委員) 全てSMITAでの配布になるのか？

(土門委員) そうしたいが、実際は判らない。Webで公開しているもの(3万点)は、すでに問題をクリアして配布可能と考えている。

(辻本委員) 大学の有体物管理規定に基づいて実施することになるのか。

(課題管理者) NBRPオオムギでは岡山大学の有体物管理規定に基づき、配付リソース

を全て大学本部に報告している

(土門委員) 種苗法に基づく育成品種がある場合、種子は大学の有体物かもしれないが、育成者権は別である。従ってこの場合はSMTAのみで配付することにはならない。

(加藤委員) クロップリストに載っていないものはどうすれば良いのか？

(土門委員) 従来通りのMTAでやりとりできる。

(課題管理者) SMTAによって二次配布が可能になると、NBRPへの謝辞の管理やリソースの独自性が無くなるので、SMTAによる配付には問題があると考えている。

(前川委員) 第三者配布が可能な根拠は？

(課題管理者) 日本が条約を批准して発効すれば、国のリソースはそれに従って配付することになる。大学の遺伝資源で二次配布を希望しない場合は、二国間での取引をすることになる。その場合は議定書のルールを守ることになる可能性がある。

#### 4) Global Crop Diversity Trustの作物近縁野生植物解析プロジェクトについて 資料9 CWR barley AGENDA について

・近縁野生種を使うことで作物遺伝資源の利用価値を高めることがねらいである。ドイツでのオオムギワークショップに先立って、三島ではイネの会議が開催された。ジーンバンクというよりはゲノム解析コンソシアムとの関連が強い。

#### 質疑等

(掛田委員長) 取り組み自体はどういう方向で進めるのか？

(課題管理者) 遺伝資源をゲノム解析をセットで考えて、基礎的な育種に役立てることが主眼となっている。

(掛田委員長) 資金の目処はあるのか？

(課題管理者) Global Crop Diversity Trust自体は資金提供しないが、コンソシアムとして何処かに応募することは考えられる。

(五月女委員) シークエンスも大事だが遺伝子機能をどのように評価するのか？

(課題管理者) それはNBRPの議題ではなく小松田委員等のプロジェクトで別に進んでいる。シークエンスが無ければ機能解析も出来ないなので、まず読みから進めるという考え方である。

(掛田委員長) オオムギゲノムコンソシアムは、佐藤さん、松本さんもメンバーか？

(課題管理者) メンバーであるが会議には出席していない。1月は代理で小松田委員が参加する。

#### 5) データベースについて

資料10 育種学会講演要旨

資料11 育種学会スライド

・課題管理者から系統のSNP情報をデータベースから公開予定で系統情報センター山崎委員と打ち合わせしている旨報告があった。

## 質疑等

(小松田委員) 情報はマップを作るために使えるが、進化系統解析(例えば野生種)には使えないと言うことを明記してユーザーに伝えて欲しい。

### 6) その他

- ・参考資料1 科学研究費によって Kyrgyz 共和国で収集したオオムギについて説明があった
- ・参考資料2 および3 IWGS および分子生物学会でのポスターが紹介された
- ・掛田委員長から次年度のメンバーについて検討し、追加・交代等が必要な場合には課題管理者と協議の上、委員会にメール会議で諮る旨発言があった。
- ・佐藤事務局長より3月12日にNBRP 運営委員長委員会を開催予定で、ABS や予算が話題になるとの紹介があった

以上

(書記久野委員、追記課題管理者)